



## はな みず はい 鼻に水が入ると、 どうして いたいの

### たくさんの、 細い血管や神経がきているため

鼻の内部には「鼻くう」という空間があります。中は、ねん膜（ねばねばして湿ったうすい膜）でおおわれており、たくさんの細い血管や神経ががきていて、たいへんびん感になっています。そのため、水が入ったり、何かでつついたりすると、とても痛いのです。

### 「鼻くう」のしくみと、はたらきは

「鼻くう」では、吸った空気を温めたり、空気に、湿り気をあたえたりします。

「鼻くう」のほほ側のかべには、鼻甲介とよばれる骨製のたながあります。その表面にはねん膜（ねばねばして湿ったうすい膜）があり、そのねん膜からは、「ねん液」（ねばりのある液体）が出ていて、入ってきたちりやごみを、くっつけて取ります。そして、それを鼻水として、鼻の外へ出します。

このように、肺に、きれいでやさしい空気を送るのが、「鼻くう」のはたらきなのです。

（監修・保志 宏）

「鼻くう」のようす

